

# 株式会社 世広

- 所在地：〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町 718-1
- 代表者：代表取締役 鈴木 定徳
- 創業・設立：昭和 40 年 7 月
- 事業内容：広告の企画・デザイン・制作
- URL：<http://www.sekoh.co.jp/>



【取材対象者】  
代表取締役 鈴木定徳氏

## 【なくてはならない存在、様々な角度から人々を元気に】

「いい仕事」を安く、スピーディに、365日24時間NOと言わずに引き受けることが使命。常に最先端を狙い、広告業のみならず様々な依頼をもこなすのは、20代のころからの行動力が源。

### ■事業内容・三方よしの考え方について

広告業は、周りが元気でなければ盛り上がりがない。そのため、地域イベントなどを開催し、あらゆる地域活性化に貢献している。地域が活性化することで、回り巡って自分たちの利益に繋がり、みんなが幸せになる。みんなが幸せになると景気が良くなる。景気が良くなると、競争が生まれ、また地域が活性化する…。このような盛り上がりの連鎖を、自分たちがきっかけとなり、創造したい。

そして「いい仕事」を安く、スピーディに行い、365日24時間対応し、NOと言わずに何とかすることを心がけている。

### ～学生コメント～

これは本来の広告業とは多少違っても仕事を受け、社会にとってなくてはならない会社になるという、社会貢献の形だと私たちは思った。

### ■社長業の喜びや社会における意義はどのような時に感じるか

例えば、クリスマスツリーの装飾など、規模の大きなことをすることは、やはり大変。

しかし、装飾作業が終了し、クリ

スマスツリーに子どもたちが集まってきたのを見ると、喜びを感じる。

また、従業員が長い時間と労力をかけて手がけたラッピングバスなどが走っているのを見ると、従業員の成長を感じ、嬉しい気持ちになる。

### ～学生コメント～

鈴木社長は、この会社での業務を通して、従業員一人一人を従業員として育てていくのではなく、人間としての社会的意義や喜びを教えていたのだと思った。

### ■20歳の時は何をしていましたか。そのとき夢はありましたか？

当時大学生で、法政大学に通っていた。小さい頃からビートルズが好きで、ビートルズの曲を聴いていたため、自然と英語が身に付き、大学では英文学を学んでいた。

また、野球に夢中になっていて、将来はプロ野球選手を目指していた。

その頃の最も衝撃的な出来事は、ジョン・レノンが亡くなったこと。その数年後にジョン・レノンが亡くなった場所に実際に行き、亡くなったと言われている同じ時間に同じ空を見た。

### ～学生コメント～

私たちはこの話を聞いて、とても驚いた。いくら好きな人が亡くなったとはいえ、ここまでのことはしないと。この行動力は、今の鈴木社長さんが広告業だけでなく、イベントの企画運営や季節ごとの装飾の依頼を断らないことに繋がっていると感じた。

この行動力は、今の鈴木社長さんが広告業だけでなく、イベントの企画運営や季節ごとの装飾の依頼を断らないことに繋がっていると感じた。

### ■20歳の私たちにに向けてのアドバイス

今のうちに色々なことに挑戦し、たくさんの人と関わるべきだ。部活を通じて人脈を増やし、アルバイトの経験を通じて社会性を養うべきである。

それから、たくさん読書をする。知識が広がり、物事をいろいろな角度から見られるようになる。

特に、司馬遼太郎の本は、若い時に読むのと、40代50代になってから読むのでは、読み取り方が変わるので、面白い。



## ■編集後記

### ◎市村 亮太

鈴木社長のお話をお聞きし、当初行っていた看板業以外の依頼も断らずに、最新の情報や技術を追い、その知識を使いAR（拡張現実）サービスや3Dプリンターでのフィギュア作りなど、他の依頼も請け負い、こなしている事や、周りを元気にする事で依頼が増え会社の利益につながるという事を教えていただきました。私は依頼を断らない事、地域に貢献する事はとても大切なのだと感じました。

また、20代のうちに人脈を増やし、社会性を身につけ色々な事に挑戦する事も大事な事だと教えていただいたので、今だから出来ることに挑戦していきたいと思いました。

世広のCSRは、起業して、設立したての企業や学校などの広告や看板などにも、最新のARや動画コンテンツなどを使ったものを提供する事や、早く安く無理がきくという事だと感じました。つまり消費者（お客様）に貢献することが、CSRです。

私は、将来企業経営者を目指しているので今回学んだ事を参考にしたいと思います。ありがとうございました。

### ◎長内 颯汰

今回、鈴木社長を訪問させていただき、社長業の喜びや、社会における意義を社長直々に聞くことができました。ただ仕事をこなすだけでなく、千葉を活性化させる活動を行っていることに感銘を受け、学生時代や趣味の話なども興味深く聞かせていただきました。

鈴木社長は、地域社会の為に仕事をすると考えた。

また、取引先の仕事はどんな仕事でもこなす、世界の最先端の技術を意識するといった点は、常にステークホルダーからの要求に応えようとする表れであり、それがCSR活動なのだと感じました。この度はありがとうございました。

### ◎宮内 隆也

今回、このような貴重な体験をさせていただき、私自身の将来に向けて考える良い機会になりました。社長業という、学生の私たちとはかけ離れている立場にいる人にも、20歳だった時があり、私たちと同じように学び、そして今とは違うものを目指していたと聞いて、とても近い

存在に感じられました。

また、常に最先端を狙っている熱心な姿勢や、マラソンや読書など、社長業をしながらも己を磨き続ける姿に感銘を受けました。

特に、「いい仕事」を安く、スピーディに、NOと言わずになんとかするという言葉を聞いて、これは私生活にも言えることだと思いました。

鈴木社長が常に社会に対して経営はいかにあるかを考えていることを学び、企業の社会における意義や社会貢献に対する意識が変わりました。

このことを糧に、将来へのイメージを膨らませていきたいと思います。ありがとうございました。



## ■敬愛大学経済学部経営学科粟屋教授より総評

経営学に「ドメイン」という概念がある。どこで戦うかというビジネスの範囲を決める概念である。鈴木社長が営む世広のドメインは、看板製作などを行う広告業ではなく、街を元気に彩るドメインと言えよう。つまり世広のCSRは街の活性化である。

鈴木社長へのヒアリングの様子を報告してくれる学生から、鈴木社長がスポーツ好きであることを聞いた。だからというわけではないが、鈴木社長の仕事への取り組み方はスポーツマンシップに溢れている。正々堂々と、全力を尽くしてお客様の要望に応える、取れそうに無いボールも追いかけると同様に断らない、新しい技（技術）も積極的に身につける。世広のCSRの根底には鈴木社長のスポーツマンシップが脈々と流れている。

20歳の頃に夢見たことと、大人になって手に入れたものは異なるけれど、それでもスポーツマンシップの精神は普遍であり、企業と社会を結びつけるマインドでもあることをゼミ生は学ばせていただいた。感謝申し上げる。